

橋本総業

東雲研修センター

旧みらいエコリフォームセンター

4月号VOL.99

# 東雲だより2019

この陽気で庭木や草花がいっぺんに  
咲き始めました。  
まさに春爛漫です。



## 今月のトピックス

### 高齢期の住まいの改修ガイドライン

- ① 3月研修会および見学会報告
- ② 「高齢期の健康で快適な暮らしのための住まいの改修ガイドライン」
- ③ 荒尾先生寄稿「デザイン水栓」
- ④ ラボ紹介「パナソニック/リノベーションミュージアム」

**\*みらいエコリフォームセンターは、東雲研修センターに名称が  
変わりました**



PACエアコン施工コーナーの  
場所を移動しました。また施  
工実習の完成モデルを設置。  
冷媒管接続は口付けではな  
く、オーケー新製品の楽継で  
行います。

## 3月研修および見学報告



エアコン施工研修



エアコン施工研修



三谷産業様見学会



タカラ様見学会

### 3月研修会、見学会の実績をご報告します

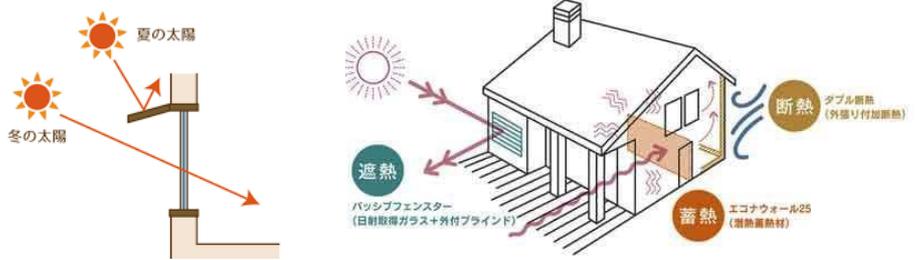
- 3/7 エアコン施工研修
- 3/8 シンラ体験入浴撮影
- 3/11 東京ガスリビング様見学会
- 3/13 キャプティーテック様研修
- 3/14 TOTOグループ様研修会
- 3/15 三谷産業様見学会
- 3/18 トキオテック様見学会
- 3/20 大垣管材様見学会
- 3/27 タカラスタンダード様見学会

# 高齢者の健康で快適な暮らしのための住まいの改修ガイドライン

国土交通省住宅局

## ① 温熱環境

- 開口部など住宅の断熱性を高め、暖冷房設備を適切に設置する
- 居室と非居室の間で過度な温度差を生じさせない



## ② 外出のしやすさ

- 玄関や勝手口から道路まで安心して移動できるようにする
- 外出や来訪のしやすい玄関とする



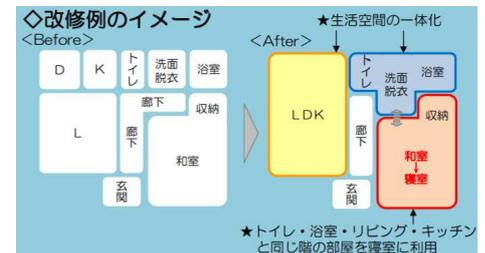
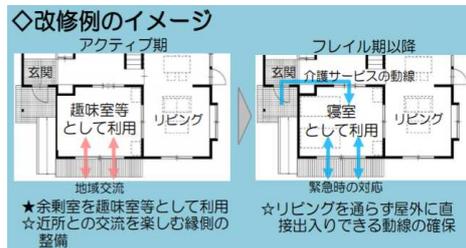
## ③ トイレ・浴室の利用しやすさ

- 寝室からトイレまで行きやすくする
- トイレ、脱衣室や浴室の温熱・バリアフリー環境を確保する



## ④ 日常生活空間の合理化

- 日常的な生活空間を同じ階にまとめる
- よく利用する空間を一体的にし、広く使えるようにする



## ⑤ 主要回線上のバリアフリー

- 日常生活において家事、外出、トイレなどによく利用する動線をバリアフリー化する



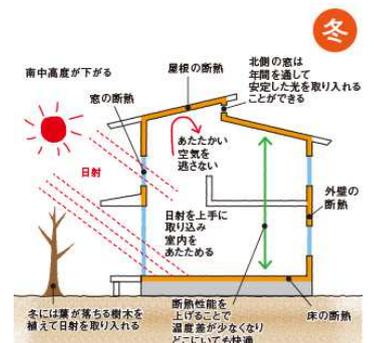
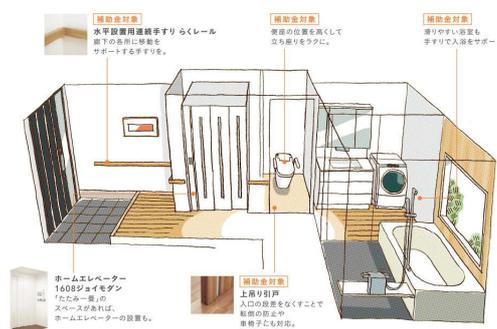
## ⑥ 設備の導入、更新

- 安全性が高く、使いやすい、メンテナンスが容易な設備を導入または更新する



## ⑦ 光・音・臭い・湿度等

- 日照、採光、遮音、通風など適切な室内環境を確保する



## ⑧ 余剰空間の活用

- 余った部屋を収納、趣味、交流などの空間として利用する

# 「デザイン水栓」

一級建築士 荒尾 博

昭和時代から平成時代では、設備機器も大きく変わりました。たとえばキッチンセットがシステムキッチンになり、洗面台がシステム洗面台になったように、「システム」という冠名称がある設備機器が今では一般的になりました。

しかし、元号が変わるからでも無く、最近は若い世代を中心にこだわりデザインが増えています。特に若い層ほどインターネットを活用していることもあり、仕様検討では、こちらからいろいろなカタログなど提示して決まっていくのではなく施主自身が自分なりにいろいろ調べてそのデータを元に打ち合わせになることが多くなっています。

その結果でも無いのですが、洗面設備、洗面台でも家具のようなシステム洗面台でも無く、カウンターから選んで、できるだけシンプルにしたいという要望で設計することが多くなっています。

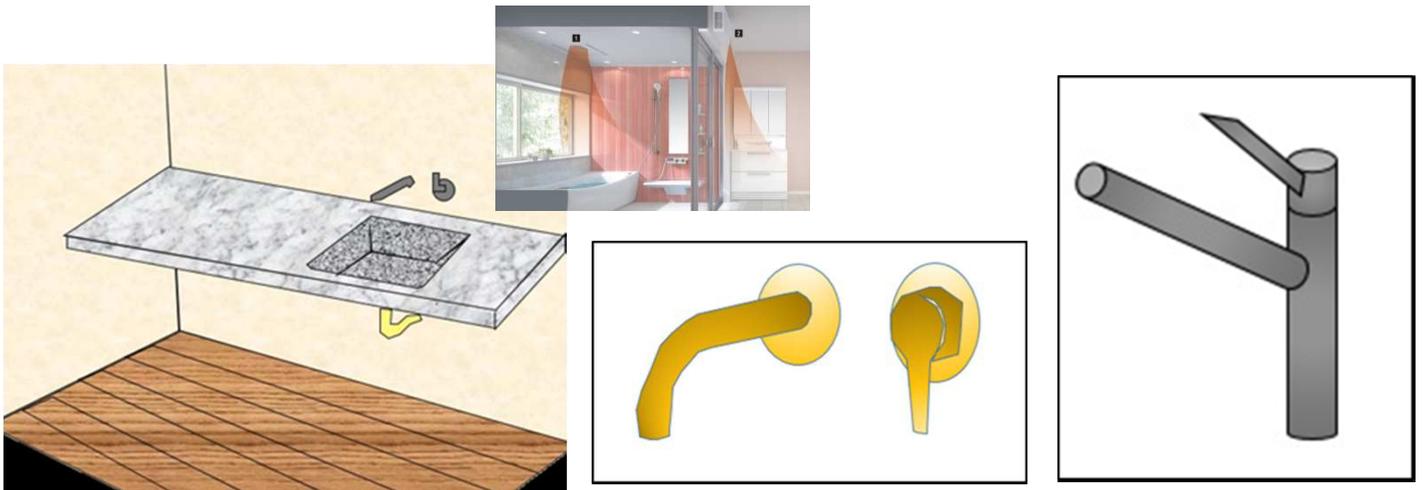
シンプルその一：カウンター+洗面器 収納無し

シンプルその二：給排水管も見える部分を極端に少なく

→ 壁からパイプ部(スパウト)と単純なレバー部のみ

⇒ 排水トラップも止水栓も壁で見えにくく

シンプルその三：カウンターしたに収納を付ける場合開き戸だけ



画1 カウンターだけ

画2 壁出し混合水栓

画3 縦混合水栓

最近の事例でも画1のようにカウンターにボウルだけで収納無し、もちろんボウルにオーバーフロー無し、水栓は画2、画3のようなシンプルな水栓、排水トラップはできれば壁に……といった感じでしょうか。打ち合わせの中で収納がとなって、その収納はシンプルに開き戸だけで良い、引き出しは透明なプラスチック製を別に買い、収納の中に設置する。となるのです。

個々で注意が必要なのは、

- ①外壁に面して壁から給排水管を出すためには土台な根太がネックになること  
⇒リフォームで外壁の下側の土台や根太を欠いてしまうと構造的に問題になる
- ②壁出し混合水栓は、外国製品が多く、裏面から固定する場合がある。  
⇒固定や故障対応で点検口が必要、壁を150mmふかさなど対応品が多い

私の経験ですが、こうした外国製のデザインの良い水栓は、②のような対応が必要なだけで無く、インターネットでの説明も不十分で、CADデータも無い場合が多いので打ち合わせの後で検討するのに問い合わせなどで配管径が、スパウトがなどどうのこうのと苦労することが多いのです。

しかし、施主の要望ですからいろいろ対応する場合もあるかと思えます。その場合、施主に説明できるだけ無く、水道工事屋さんにも十分説明し、メンテナンスについてなどいろいろな情報を集めて対応する必要があります。

